

会長	菊地篤	(雄和小中)		
副会長	三浦直樹	(下浜中)	黒澤淳	(八橋小)
事務局	中尾裕子	(山王中)	伊勢さおり	(岩見三内小)
	小泉水季	(旭川小)		
幹事	小林さおり	(将軍野中)	三浦茉莉	(秋大附小)
会計	櫻田麻莉恵	(外旭川中)	佐藤廣子	(勝平中)

大森山動物園
第46回親と子のふれあい写生大会
(大森山動物園と共催；審査日8月8日)

全市一斉授業研究会 (小学校)
会場；旭川小学校
実施日；11月8日 (水)

秋田県児童生徒美術展秋田市審査
審査会場；秋田南中学校
審査日；12月9日 (土)

クロッキー巡回展：市内各小学校12月～2月
(審査1月15日～18日、展示2月中旬
から入賞作品スライドショー公開)

第46回親と子のふれあい写生大会

今年度は、大森山動物園開園50周年という節目の年であり、また、新型コロナの5類移行を受けて、4年ぶりに園内での作品制作が可能となった。(昨年度同様、自宅で制作した作品の出品も可能)今年度は、約243点の力作が出品された。今大会は、開園50周年を記念し「未来の動物園を描こう」というテーマのもと、広く作品を募集した。子どもたちは、こんな動物が大森山にいたら楽しいだろうな、未来の動物園はこんな風景だろうななどと夢を膨らませ、自由なタッチで伸び伸びと描いていた。

8月8日(火)秋田市造形教育研究会の担当が審査した。作品制作のテーマを踏まえ、子どもの思いが伝わる作品を尊重し、時には裏面にある題名を手がかりとしながら、子どもが対象とする動物へ抱いている思いや、表したかったのか様子を考えながら審査した。作品を見る目を養い、造形会員同士が指導法等について意見を交換し合う有意義な研修の場となったが、現状の審査方法では子どもの思いや表現の工夫を共有することはできないため、絵にこめた思いを裏面に書く欄を設けるなど、もっと工夫して来年度以降も実施していきたい。

○全市一斉授業研究会 (小学校) 11月8日 (水) 旭川小学校小林水季先生

題材名「アニメーションスタジオ旭川～つなげてえがくショーストーリー～」(5年生)

コマどりアニメーションwebアプリを活用し、タブレットで撮影した写真【授業の様子】をつなげてアニメーションを制作する題材である。自分でテーマを決め、紙コップやペットボトルのキャップ、洗濯ばさみ等身近なものが「動く」様子を、豊かな発想で自由に表現した。子どもたちは、動画や写真を撮影したり編集したりすることが身近な環境で生活しており、見るだけでなく自作することに対して興味も高まっているため、生き生きと表現活動に取り組む姿が見られた。

協議会では、本授業に関する内容や、今年度の市造形研の研究主題「感じることと表したいことをつなぐ～感性や想像力を働かせながら、造形的な視点を豊かにもち、主体的に活動に取り組む子どもの育成～」に基づいての意見交換が活発に行われた。ICTを活用した題材の提示であり、また、久しぶりの子どもたちの活動の様子を直接見ながらの授業研究会で、非常に有意義な研修となった。

授業の様子

